

議事要旨(速報版)

1 / 4

件名： 新滝ヶ洞溜池の水質異常に係る対策協議会 第2回 対策協議会
日時： 平成15年 8月26日(火) 13:00~17:30
場所： 現場視察及び可児市総合会館
出席者： 出席者31名 欠席：2名(杉崎委員、後藤委員) 植下委員長、堀内委員、大沼委員、今村委員、平山委員、佐々(正)委員、鈴木委員、霞委員、竹谷(忠)委員、佐々(俊)委員、細田(收)委員、奥村委員、加藤(光)委員、加藤(匡)委員、豊場委員、竹谷(雅)委員、山口(綱)委員、足立委員、田口委員、佐橋委員、滝口委員(細田(綾)委員代理)、吉田委員、山田委員(山口(正)委員代理)、水野委員、小木曾委員
配布資料： <ul style="list-style-type: none">・第2回対策協議会議事次第 ・席次表・第1回対策協議会議事要旨(速報版)・資料2-1 水質分析結果と各種基準、黄鉄鉱の酸化、池の状況変化の説明・資料2-2 意見質問一覧・資料2-3 水質分析の監視項目と監視箇所の確認・資料2-4 現地説明図・漁協久々利支部提出資料：新滝ヶ洞溜池の水質異常に対して、漁協久々利支部からの質問・久々利大萱自治会一同提出資料：国土交通省、可児市に対する要望 残土処理場の災害等に関する件
議事内容： <ol style="list-style-type: none">1. 現場視察<ul style="list-style-type: none">・残土処理場、処理プラント、施工現場2. 会議<ol style="list-style-type: none">(1) 開会(2) 挨拶 新滝ヶ洞溜池の水質異常に係る対策協議会 委員長 植下協 可児市長 山田豊(3) 第2回協議会審議事項<ul style="list-style-type: none">第1回協議会議事要旨について 加藤(匡)委員：前回協議会の議事要旨は、会議議事録とは言えない。 委員長：膨大な議事録となります。全文が必要なら事務局で。 事務局：議事録の全文は事務局にあります。 加藤(匡)委員：了解しました。黄鉄鉱が酸化するメカニズムについて 事務局：資料2-1「2.黄鉄鉱が酸化するメカニズムの説明」に基づき説明、実験開始。協議会への意見質問について 事務局：資料2-2に基づき説明。 大沼委員：pH測定値が食い違ったのは、測定水温が違ったためではありません。 本当の原因は次の二つのうちいずれかだと思います。 一つ、現場で使用したpHメーターに問題があった。二つ、植物ブ

ランクトンの光合成によって日中のpHが8～9に達していたが、実験室に持ち帰った頃には逆に植物プランクトンの呼吸のためにpHが低下していた。

水質分析結果と各種基準について

事務局：資料2 - 1「1. 水質分析結果と各種基準の説明」に基づき説明

堀内委員：水質基準について解説。

滝口委員：界面活性剤がなぜ山の中から出るのでしょうか。

堀内委員：陰イオン界面活性剤は、人為的な活動に伴って排出されたと考えられます。

滝口委員：何かそういうもの（産業廃棄物）が埋められているのでしょうか。

今村委員：ボーリングをして水質を調べれば明らかになります。

吉田委員：今日現地視察をして、4月とは違った泡がでていました。学識経験者の意見は。

平山委員：モコモコして粘りけがあり無機物ではない。有機物が入っているのでは。

滝口委員：アスファルト工事で泡がでるのでしょうか。

平山委員：アスファルトは考えにくく、成分的にはないと思います。

豊場委員：陰イオン界面活性剤はボーリングの中から検出されるのでしょうか。

今村委員：ボーリング孔の水を分析すれば確認できます。

豊場委員：埋め立てた土の垂直分布はわからないのでは。

今村委員：地山まで掘りますので埋め立てた部分が全部確認できます。

水質分析の監視項目と監視箇所の確認

事務局：資料2 - 3「水質分析の監視項目と監視箇所の確認」に基づき説明

大沼委員：TOC（全有機炭素）の測定を提案します。また、ICPまたはICP/MSで簡単に測定できるNa, K, Ca, Mgなどの無機イオン測定も有効です。硫酸や重金属類の溶出実態の解明や、この現象がいつまで続くのかを見通すためにも、重要な測定です。

今村委員：TOCについては私も賛成です。ICPは研究的にはよいと思うが今後の継続的な恒久対策を検討するのに必要ないと思います。

加藤(匡)委員：国交省が黄鉄鉱の酸性化について予測できなかったというのは疑問です。

委員長：大きな工事の場合、国が環境影響評価をするよう環境省が指示をします。この工事ではまだ環境省が指示しなかった。地盤中の鉱物が化学変化して害を及ぼすというようなアセスは従来なかった。

加藤(光)委員：下の川にハヤが見えない。昨年と違う。生態系が狂ってきている。

委員長：各自治体が環境問題を考えています。

細田(収)委員：恒久対策私案の説明。

委員長：回答は、次回にしたいと思います。

黄鉄鉱が酸化するメカニズムについて

事務局：実験結果の説明。

平山委員：黄鉄鉱が酸化するメカニズムについて解説。

池の状況変化のメカニズムについて

事務局：資料2-1「3.池の状況変化のメカニズムの説明」に基づき説明。

平山委員：池の状況変化のメカニズムについて解説。

吉田委員：調査でどういうことをやったけど（このような水質異常が）わからなかったという内容の資料を次回までに提示してもらいたい。また、安心して暮らしていける対策を検討してもらいたい。

委員長：次回に説明します。

滝口委員：化学実験ではなくて、酸性土壌でなぜ泡が出るのか先生方に調べてほしい。

堀内委員：原水で何が原因か調べるべきであると思います。

大沼委員：泡の正体を知ることは難しい。現場の泡を大量に採取して、様々な分析を試みる必要がある。

水の色と水質の関係というのも、一筋縄ではなく難しい。安直な考察はしないほうがよい。但し、入浴剤のような色をしていたという感想から類似の例を思い出す。それは、三河湾などで発生する青潮（または苦潮）と静岡県茶畑地帯のため池で起きた青色化現象である。前者はコロイド状の硫黄、後者はコロイド状のアルミニウムと結論されている。今回も硫酸によって溶出された金属類がため池に流入して中和され、コロイド状の微粒子となっていた可能性がある。

もう一つコメントします。先程行われた簡単な溶出実験ですが、やはり定量的に腰を据えた実験が必要だと思います。

竹谷(雅)委員：まもなく刈り入れが始まります。次の協議会までに今年とれた米が口の中に入ります。米は食べていいのか、文書を出してください。

委員長：それは安心していただけるようにしてほしいと思います。可児市さんいかがでしょうか。

事務局：委員会から指示があれば進めていきたい。先生方からのご助言を受けて対応したい。

委員長：ご相談しながら地元の方に納得していただけるようにします。

足立委員：重金属について説明いただきましたが、だからといって食べていいと言うことでしょうか。

今村委員：WHOでは食べていいと言っています。問題は、今年、WHOは基準値を0.1mg/kgに下げました。日本は0.4mg/kgのままです。日本の水田は自然状態で結構高い値を示します。

山口(綱)委員：久々利の米は今年どうか調べてほしい。

事務局：早急に箇所などを決め分析を行いたいと思います。

山口(綱)委員：その前に、地元とよく打ち合わせてやってほしい。

佐橋委員：水質分析結果に降雨量がわかるようにつけてほしい。

田口委員：(漁協久々利支部提出資料の)質問に対する回答をまとめて方向性を決めたい。また、速やかに魚が住めて安心して食べられる状況にしてほしい。

豊場委員：現状に対する報告はでていますが、重金属の対策をどうするのかでていない。重金属除去の検討を早急にしてもらい対策をたててもらいたい。

堀内委員：今の処理プラントでそういう処理はなされています。

今村委員：今の方法が一般的であり、キレートと効果は同じと思います。

大沼委員：処理装置が常に最良のメンテナンスのもとに、最良の稼働をすればよいのですが、現実にはそうはいきません。現に先程現場見学したところでは、石灰混合槽のpHコントロールが難しそうでした。そういう観点からすれば、最善の処理を継続するためにはキレート樹脂タンクを最終段に設置するという考え方は理にかなっていません。

霞委員：ボーリングと調整池の泥の取り出し問題について早急にできないか。

平山委員：ボーリングは昨日から入っています。恒久対策の私案についてですが私たちも同じようなことを考えています。早急にやりたいのですが、それぞれのメカニズムを検討してから最適な工法を提案したい。

加藤(匡)委員：久々利では災害時のシミュレーションを要望します。大萱自治会から市議会に対して請願を出します。また、情報を発信しています。意見があれば情報をください。